

「就職先による卒業生評価調査」報告

2023.12

就職進学支援部

実施期間：2023年9月14日（金）～10月1日（土）

調査対象：2023年3月卒業生の全就職先 [171件（258人分）]

<内訳>社会福祉学科：56件（61人分）
子ども福祉学科：42件（44人分）
理学療法学科：45件（55人分）
作業療法学科：21件（22人分）
看護学科：30件（76人分）

調査方法：郵送

調査項目：以下のとおり

1. 事業所名
2. 記入者名（部署・役職・氏名）
3. 評価対象者名（卒業生氏名・学科名）
4. 評価対象者の評価
 - ①特に評価できる点（能力、勤務態度、意欲、人物など）
 - ②不十分な点
5. 本学へのご意見・ご要望（教育面でさらに強化すべき点など）

回答方法：Google フォーム、FAX、郵送

回答率：68.4% [116件（185人分） / 171件（258人分）]

<内訳>社会福祉学科：55.4% [31件（33人分） / 56件（61人分）]
子ども福祉学科：69.0% [29件（31人分） / 42件（44人分）]
理学療法学科：77.3% [34件（46人分） / 44件（55人分）]
作業療法学科：66.7% [14件（15人分） / 21件（22人分）]
看護学科：83.3% [25件（60人分） / 30件（76人分）]

「6. 評価対象者の評価」の主な回答

① 特に評価できる点（能力、勤務態度、意欲、人物など）

<社会福祉学科>

- ・挨拶や言葉遣いが丁寧で好感が持てる。
- ・体調を崩すこともなく勤務態度も良好。
- ・ハキハキしており素直。
- ・明るく協調性がある。
- ・負けん気が強く自分にストイック。
- ・物覚えが良く独り立ちが早かった。
- ・支援での着眼点が良い。ニーズの把握も上手である。
- ・教えられたことを吸収しようとメモを取り振り返りをしている。
- ・高い能力、勤務態度も真面目で意欲や向上心もあり将来的にも期待できる人材。
- ・研修等にも積極的に参加し自己研鑽している。
- ・利用者に対し優しく関わっており関係性もよい。
- ・わからないことは自分から先輩職員に質問するなど誠実が見られる。
- ・上司や先輩からの助言や指導に対して素直に聞き行動している。
- ・何事も一生懸命に取り組む姿勢。

- ・挨拶や報告・連絡・相談に関して社会人としての基本も意識している。
- ・わからないことへの質問だけでなく会議で自らの考えを発現する姿も見られた。
- ・要領よく業務を組み立てて実施できている。
- ・利用者の方一人ひとりにしっかり寄り添い笑顔で関わっている。
- ・仕事に対する向上心や探求心も高く率先して支援に取り組んでいる。
- ・課題解決に向け工夫し、試行錯誤しながら熱心に取り組んでいる。
- ・仕事に対し好奇心旺盛で、チャレンジ精神が強い。
- ・レクリエーションでオリジナルのものを考え楽しませている。
- ・場面により何が必要か察知して行動している。
- ・子ども達が安心して過ごせ生活習慣の見守りや活動面でのやる気を引き出している。
- ・後輩職員に対しマニュアルを作成し指導することもできている。
- ・指導したことは見直され改善できている。

<子ども福祉学科>

- ・我慢強く忍耐力もあり、おおらかな人柄。
- ・素直で優しい性格が職員だけでなく園児にも好かれ親しまれている。
- ・特に体調を崩すことなく勤務態度も勤勉である。
- ・穏やかな性格もあり、じっくりと子ども達と向き合えていると感じる。
- ・一つひとつ学ぼうと一生懸命で、子どもたちと真摯に向き合っている。
- ・感謝をしっかり言葉にできるところが素晴らしい。
- ・社会人としての常識は備わっていると思われる。
- ・子ども全体に目配せもでき子どもの心情の読み取りもできる。
- ・行事の準備等において先輩保育教諭と協力して参加できる。
- ・保育がしやすいように環境を整えたり本人なりに真剣に取り組む姿が見られる。
- ・周りの職員とも協力しながらとても良い関係で仕事をしている。
- ・意欲的に保育に臨んでいる様子が見受けられる。
- ・4月～6月は子ども達をいかに叱らずに保育できるかをテーマに置きしっかり実践できていた。
- ・よく気が付き、すぐに行動ができる。
- ・先輩からの注意を素直に自分の学びとして受け止め、実践につなげようとしている。
- ・子どもの気持ちの捉えができている。
- ・音楽面での能力、具体的には曲のアレンジやピアノ演奏に長けている。
- ・伝えたことは責任を持って最後まで取り組む姿勢が見受けられる。
- ・先輩の姿を見て積極的に動き初めての事にも挑戦しようとする意欲が見られる。
- ・打ち合わせや会議で自分の意見や考えを示し質問や報告も自発的にしている。
- ・きめ細やかに園児に接することができ適切な保育を実践している。
- ・向上心を常に持ち、先輩から学びとろうとする意欲が高い。
- ・わからないことはそのままにせず周囲に聴きながら進めていく姿勢も評価できる。
- ・製作が得意で保育室内の装飾なども工夫し用意している。
- ・提出物などは期限を守ることができている。
- ・子ども達や保護者と笑顔で元気に関わることができている。
- ・疑問に感じたことは先輩に確認しあいまいな対応はしない。
- ・理解力があり一つのことを教えてもその後プラスアルファで行動する事ができる。
- ・協調性や気づきがあり信頼性が高い。
- ・患者、家族に対する対応も丁寧であり苦情など一切ない。

<理学療法学科>

- ・人懐っこい性格で協調性はあるようだ。
- ・人柄がよく職員や患者にも親しまれている。
- ・真面目で優しいキャラクターでスタッフや患者から好印象。
- ・概ね体調管理が行える。
- ・素直。お礼、謝罪の言葉をしっかり言える。
- ・自身の課題を解決しようと努力している。
- ・周囲への気配りが良くできている。
- ・自分の業務に対し責任をもち、期限内に書類作成等を行うことができている。
- ・他部署へのコミュニケーションも積極的に行えている。
- ・スポーツ整形に興味を持っておりスポーツ疾患ひと際頑張る様子が伺える。
- ・患者第一で行動できているところが素晴らしい。
- ・勤務泰地の問題なく患者との関りなど丁寧に接することができる。
- ・指導者からのアドバイスを素直に受け止められている。
- ・問題に対して自分なりに考えて理解しようと動いている。
- ・報告はしっかり行えており、わからないことがあればリーダーや先輩スタッフに確認しながら業務を遂行できている。
- ・物事を深く考える点。
- ・医師にも自分の意見を述べるできている。
- ・自分から進んで質問ができる。
- ・感情的にならず安定して仕事ができる。
- ・報連相は適宜行うことができ問題なく業務を覚えられている。
- ・誠実に業務に取り組む様子。
- ・先輩の話聞く様子など社会人基礎力が優れていた。
- ・他に流されることなく事故を律して仕事に取り組むことができる。
- ・評価からの考察は不十分な点が最初は見られたが、持ち前のコミュニケーション力で先輩たちに自ら質問紙対応することができる。
- ・知らないことを学ぶ時の吸収力がとてもよく今後応用できるようになるとさらに機能訓練指導員として社会人としても成長できると思う。
- ・小児のリハビリへの興味を持ったり、先輩のリハビリ場面の見学を行ったりと意欲的に臨床に取り組んでいる。
- ・学会に参加するなど臨床能力の向上や自己研鑽に対する意欲が高い。
- ・苦手なことにチャレンジできる。
- ・やる前からあきらめる事はなくまずはやってみる姿勢がある。
- ・指摘されたことは素直に受け止めて修正することができる。
- ・人と接することに関しては他のスタッフと比較しても遜色ない。

<作業療法学科>

- ・挨拶ができる。
- ・身だしなみがしっかりしている。
- ・体調管理がしっかりできている。
- ・勤務態度、接遇、意欲。
- ・患者への態度は良好。
- ・同期やOT内も関係は良い。
- ・患者の課題となっているところに適切に対応している。

- ・素直に指導されたことを聞き実行できる。
- ・リハビリテーション業務に対しては誠実に取り組む。
- ・自身の知識や技術が不足しているとして患者に不利益を与えないよう助言を求める姿勢が見られる。
- ・物静かな感じであるが患者には明確な対応をし、必要に応じての報告なども行えている。
- ・時間はかかるが新人として真面目に業務に努めている。
- ・意欲を前面に出すタイプではないが言われたことは真面目に仕事に取り組んでいる。
- ・伝えたことは確認しながら行える。
- ・報告、連絡、相談を行える。
- ・計画的かつ滞りなく業務が遂行できる。
- ・相手を尊重して臨床にあたることができ、患者から信頼を得ている
- ・挨拶などの社会人としての態度、学ぶ姿勢や意欲があり評価する。
- ・各種評価方法は問題なく実施できている。

<看護学科>

- ・人懐っこいところがあり良好な人間関係を築けている。
- ・明るくて元気。周囲の雰囲気良くなる。
- ・明朗快活である。
- ・笑顔で丁寧な言葉遣いで、あいさつがきちんとできる。
- ・受け答えがハキハキしていて気持ちが良い。
- ・能力、勤務態度、意欲、人物全て。
- ・勤務態度は真面目で勤勉。
- ・体調管理ができており休まず出勤している。
- ・無断欠勤や遅刻はなく体調不良時には自ら相談にくることもあり自己の体調管理の大切さも理解できている様子。
- ・患者や他スタッフと会話はできておりコミュニケーション能力はある。
- ・明るく前向きに仕事に取り組んでいる。
- ・過度に緊張せず感情のコントロールもできており穏やかに業務を遂行している。
- ・自己判断せず確認しながら行っている。
- ・課題に対して同級生よりも迅速に取り組み提出も早い。
- ・チーム内の他のメンバーの動きに配慮しながら自分のできることを実施できている。
- ・ケアで患者が喜んでくれたことに対して素直に喜びを感じることができる。
- ・自分の思いを表現することができる。
- ・わからないことを誰にでも臆することなく聞けること。
- ・積極的に仕事・看護に取り組めること。
- ・先輩に対し報告・連絡・相談できている。
- ・同期に悩みや想いを共有でき、集合研修の時は考えを発表することができている。
- ・医菜緒にアドバイスを聞き入れ、改善点も考えながら取り組んでいる。
- ・スタッフ同士の会話では自分が責任を持って行う業務を確認しながら遂行している。
- ・患者、家族、職員に対して物腰が柔らかい。
- ・レジリエンスが高く指導を受けたことに関してリレクシオンし、次の看護に活かすことができる。
- ・どの患者に対しても寄り添う姿勢があり、患者からの信頼も厚い。
- ・自身の今後の課題が明確にあり自己学習にも積極的に取り組んでいる。

- ・指導を受けた内容は必ずメモを取り、実施時には確認しながら慎重に実施している。
- ・未経験の検査や処置は自ら積極的に声をかけ経験できるように工夫している。
- ・自分が今、何ができるのか判断し考えながら業務を行えているので、アセスメント能力、看護技術能力も日々実践を通じて向上できている。
- ・チームの一員としての自覚もあり自分の仕事が落ち着いた場合は他のスタッフに声をかけ自ら協力しようとする行動も見られ協調性も高いと感じる。
- ・率先して動くことができ周りへの声かけができています。
- ・目の前のことにポジティブに取り組むことができる。
- ・周囲をよく見ておりナースコールにも進んで対応している。
- ・一度伝達した内容は行えている。

② 気になる点、不十分な点

<社会福祉学科>

- ・受動的なところがある。
- ・コミュニケーション能力が欠ける。
- ・健康面で腰痛があるとのことで気になっている。
- ・視点の置き所が未熟である。
- ・意識が高いところについて他人にも同様のことを求めてしまう。
- ・学習したことが繰り返し実行できない。
- ・大人しいため上手くコミュニケーションが取れるか少し気になる。
- ・完璧を求めてしまう傾向にあり、壁にぶつかり挫折しないかが気がかり。
- ・介護の知識に関しては少し劣っているように思えるが本人も重々承知している。
- ・知り合いの職員が多いためか言葉遣いが少し気になる時がある。
- ・問題発生時に他人事のような姿勢が見られる。
- ・以前よりも支援者側が種になる行動が出てきている。一緒に整理しながら様子を見たい。
- ・話が長く対利用者とのコミュニケーションも負担をかけてしまう場面が見られる。
- ・自分の判断で行動してしまうことがありコミュニケーション不足と感じる。
- ・行動面でトラブルがある利用者については上司等より学びながら支援を行っている。
- ・丁寧に仕事を行っていることで夜勤明けの日に昼近くまで残業していることがあり帰りの運転が心配。
- ・自分の考えや想いは持っているが表に出されていないため、いつでも自分から発信できる環境を整えておこうかと思っている。
- ・わからないことは尋ねることができるが提出物は確認して初めて「わからなかった」と言われることが何度かあった。そのような時も自ら確認できるよう伝えていきたい。

<子ども福祉学科>

- ・体調管理の面で不安がある。
- ・遅くまで残っていることもあり無理をしていないか根詰めすぎてないか気になる。
- ・体調を崩しやすいため周りからの配慮が必要と感じる。
- ・周りの職員の動きに気付けずマイペースさを感じる。
- ・運転技術面（判断・動作）
- ・自信のなさが見られる。
- ・経験が浅く力を出し切れていないところがあるように思える。
- ・勤務時間を気にしている。仕事に対して淡泊なところが見られる。
- ・環境構成の工夫。

- ・苦手部分を克服しようとの積極的な姿勢があまり見られない。
- ・対人コミュニケーションが乏しく自発的に対話をすることが少ない。問いかけに対して言葉を発することが遅い。
- ・子どもや先輩保育士に対しての言葉遣い。
- ・積極性に欠け指示されてもなかなか行動に移すことができない。
- ・掃除用具の扱いを知らない。雑巾等しっかり絞れないなど基本的な掃除のやり方が身についていない。
- ・アルバイト感が抜けずクラスの事であっても他人事のような報告を受けることがある。

<理学療法学科>

- ・入職当初より表情が硬い。
- ・感情の抑揚が乏しい。
- ・キャラクター的な部分で損をしてしまうところがあるようだ。
- ・声が控えめであり消極的な印象を受けてしまう。
- ・コミュニケーション能力は高いが丁寧語の使用が不十分。
- ・コミュニケーションの取り方や間合いも独特であり患者やスタッフ間の疎通が難しい状況も多々あった。
- ・患者との会話が年齢相応の内容になってしまうことが見受けられる。
- ・不快な程度ではないが接遇が崩れやすい傾向にあり指導している。
- ・入職当初より言葉遣いや態度、礼節に欠けていた。
- ・同じミスが多く安全管理に課題があるため患者担当数を調整し業務量や難易度など配慮している。
- ・基礎学力を臨床に落とし込めておらず病態把握や機能解剖の理解が乏しいが知ろうとする意欲は見られる。
- ・どのような理学療法士になりたいか目標曖昧で現在模索中。
- ・周囲の状況に配慮しすぎてしまう面があり行動が遅くなってしまうことがある。
- ・スケジュール管理に苦手意識があるが自身で管理できるよう動いている。
- ・業務においてミスや患者の行動予測が不十分な面もあるようだが少しずつ改善がみられており、職務遂行に大きな問題はない。
- ・リスク管理。(転倒)
- ・動き出すまでに時間がかかる。
- ・責任の捉え方が浅い。
- ・考えを整理し他者に伝えることがやや苦手な印象。
- ・積極性が乏しい。自信がない(ネガティブ)。
- ・できない理由を探す傾向にある。それらしいいいわけがかわす傾向が見られる。
- ・物事を深く考える力。
- ・自分で知識をつけることが苦手かもしれない。
- ・疾患や機能解剖などの基礎知識については今一步努力が必要と感じる。
- ・質問が抽象的になりやすく自分の考えがあまりない様子。
- ・語彙力が乏しい。
- ・問題ないレベルだが患者の個別性を考慮して柔軟に対応することが難しいようだ。
- ・興味を持った事柄などに対する自発的な学習が不十分。
- ・報連相の有無を自己判断で決定し実行しない。
- ・課題に対して期限を守って進めない。
- ・提出物の字があまりきれいでない。(丁寧に書くよう指導している)

- ・先輩から業務の事で注意された後、食欲不振等で勤務できずフォローが必要でありメンタルの弱さを感じた。
- ・基礎知識はしっかりあるが実績や経験が浅いことから自分に対する評価が低く、自身がないことで持っている知識や能力が発揮しきれていない。
- ・技術面において不安を感じながら行っていることで利用者様にも伝わり上手く手技はまだ活用できていない。
- ・利用者の個々の身体状況を鑑みた運動リスク管理においてやや不十分なところが伺える。
- ・組織の中で相手の立場に立って考え行動する事が苦手。
- ・入職当初はパソコンの使用が不慣れであり記録管理や書類作成に難渋した。
- ・患者評価においてやや粗雑な部分を垣間見ることがあり丁寧さに欠ける部分がある。
- ・事務的な業務を覚えることがやや苦手であるのか同じ指導を何度か行うことがある。
- ・時々報告が不足することがあるので報連相の強化を図っている。
- ・患者に関する質問（問題点の解決やリハ内容について）が少ない。
- ・性格上マイペースなため全体的に遅れていることがある。
- ・介護保険や診療報酬に対する知識が薄い。

<作業療法学科>

- ・日本作業療法士協会入会しなければならないのかと発言があり。協会への理解が不十分。
- ・リスク管理。
- ・消極的。
- ・患者の接し方が少し碎けすぎる時がある。
- ・相手への負担などを考え行動を控える場合が就職初期は多々見られた。
- ・確認をせず自己判断で動いてしまう。
- ・指導してもあまり響かない。
- ・全体を見ることが苦手で一人の患者にかかりきりになる。
- ・遠慮もあると思うが今後もっと積極的に院内での自分の存在についてアピールしていけばよい。
- ・独り立ちするには他の新人職員より時間がかかると感じている。
- ・ゆっくりかみ砕いて理解できるようにこちらの説明に工夫が必要である。
- ・スタッフとのコミュニケーションが不十分であり相談や連絡、報告に助言が必要となっている。
- ・あまりメモを取らず本人の中でのスケジュールを組み立てることが困難であり助言が必要である。
- ・不十分な点はいくつかあるが現状足りていない部分を自分で改善しようと取り組んでいる。
- ・自己肯定感が低いこと。
- ・失敗を回避しようと入念に準備ができており良い点ではあるものの極端に自信を追い込んでいないか先輩スタッフが気にかけてサポートする必要がある。
- ・「緊張」「不安」という発言が多々見られる。
- ・なれない環境に加え当院の特性上多岐にわたる疾患、年齢層、在院機関の短さ、加えて職員の多さや多様さなどに適応するためにやや配慮を要する。
- ・コミュニケーション面では言葉遣い、報告連絡相談が気になる。
- ・患者介助が苦手。
- ・評価後の治療につながる解釈が不十分。

<看護学科>

- ・課題解決のために一人で背負い込み無理をしやすい。
- ・稀に言葉遣いが気になることがある。
- ・準備や手技など人より覚えるのに時間がかかる。
- ・自身がなく曖昧に答えてしまうことがあり指導者から心配される。
- ・人からの評価を気にしすぎるあまり出来ないのにしたことがあると言ってしまうことがあった。
- ・完璧を求める傾向にあり、できない自分に落ち込んでしまうこと。
- ・できると思ったことが上手くいかず悔しさが顔に出ることがある。
- ・同期と同じようにしたいという気持ちが強く遅れることに不安が強い。
- ・課題や提出物が遅れがち。重なってしまうと忘れてしまっていることもある。
- ・研修課題や提出物は再三促して提出している状況である。
- ・多重業務になると確認不足や抜けてしまうことがある。
- ・学習する意欲がもうひとつ不足している。
- ・自ら積極的に情報収集していくこと。
- ・自分から課題を見つけ自発的に学習するには至っていない。
- ・自己学習がやや不足している点が気になる。
- ・業務は優先順位を考えながら行っているがやや雑な面があり思い込んで行動してしまう場面が見られる。
- ・多重課題があったときに患者確認を行わずインシデントを起こしている。
- ・処置の手抜きはできるが変更点があってもそれ以前の方法で実施してしまう。なぜ変更となったのかアセスメント力が乏しい。
- ・会話が少ないため本人の思いを会話から引き出すことが難しい。
- ・日々の業務において全体的に関心が薄く感じられる。
- ・直面した事象について直感や思い付きで行動する事がある。インシデントには至っていないがやや慎重さに欠ける。
- ・カンファレンスの場などでまだ発言ができていない。公の場で自分の意見をしっかり述べられるようになればチームの要として活躍できる力はある。
- ・イレギュラーなことが発生すると焦ってしまい落ち着いて仕事ができない。
- ・7月に新型コロナウイルス感染症で休むことになったが前日から風邪症状がある中で勤務していた結果、患者2名がのちに陽性となった。医療提供者としてうっさい行動ができると良かった。
- ・特発性過眠症の影響か研修や座学の時にうとうとする場面がある。勤務への支障は見られないが若干忘れっぽい面があるのが気になる。
- ・自己評価が低い分、自信に繋がらず達成感を感じにくいためストレスを貯めやすい。本人がづらい思いにならないようにフォローしていく必要があると感じている。
- ・マイペースな部分を崩されるとできていることも出来なくなる傾向にある。本人に焦りが出ないように気を付けながらペースを崩さず指導していきたい。
- ・報告・連絡・相談が不十分なことがある。
- ・先輩からの指導が素直に受け入れられず自分の考えを押し通そうとする時がある。
- ・表面上物事をそつなくこなしているように見えるが頭の中がいっぱいになっていることがある。行動ではわかりづらいため表情やコミュニケーションを取って汲み取っていきたい。
- ・重要なことを重要だととらえているかわからないことがある。
- ・注意を受けているという認識が薄いように見受けられる。
- ・楽観視しすぎだと思ふ場面がある。

- ・他のスタッフの会話にひきつけられる。(自分の意見を持っていない)
- ・報告内容を自己判断してしまう。

「7. 本学へのご意見・ご要望（教育面でさらに強化すべき点など）」の主な回答

＜社会福祉学科＞

- ・引き続き社会人として必要な能力を備えた人材育成をお願いしたい。
- ・自己表現手段としての文章力を高めて頂ければどこに行っても役立つと思う。
- ・自立支援教育、認知症と精神障害について学べるとよい。
- ・勉強するくらいなら外へ出て現場で知り学ぶ方が効率は良いと思う。
- ・障害福祉に興味を持てる機会を提供してあげてほしい。
- ・実習や就職につながる人材を在学中に育成してもらいたい。
- ・時代に合った斬新なアイデアも含め福祉現場とのより綿密な連携を希望。
- ・入社後3年は下積みをとって大きな成果などは求めているが、その分退職となるとコストにしかならないので残念だ。
- ・パソコンの使い方や電話対応、接客の心得などあったらよい。
- ・実習記録の書き方を今一度ご指導いただけたらと思う。
(一部日記調になっている、誤字脱字など)
- ・内定が出た4年生にインターンシップに積極的に参加するため学校側で紹介をする。当院でも受け入れは検討する。
- ・いろいろな施設への実習や交流の機会が多い方が視野が広がっていいと思う。
- ・毎年、優秀な学生を送り出していただきありがとうございます。

＜子ども福祉学科＞

- ・社会的養護の現場の厳しさと面白さを伝えて欲しい。
- ・実習受入れ可能な園の情報を学生さんに提供し選択の幅を広げて頂けるとありがたい。
- ・一般常識（あいさつ、返事、メモをとる）などを確認し実習に臨んでほしい。
- ・ソーシャルワークを深め実践をより良くするために研鑽を積むことに対して消極的な学生が多い。
- ・福祉の仕事をする自分の自分が生活している中での意味を考えられる学生になって欲しい。
- ・実習は実体験できるいい機会なので結果を恐れずにいろいろとチャレンジする気持ちで臨んでほしい。
- ・自分で考え行動できる力がつくような教育をお願いしたい。
- ・実習の機会を多くとってもらおうと実践力につながるのではないかとと思われる。
- ・先輩のようにできるではなく子ども達が一番大好きな（遊びたい）人となってくれると嬉しい。
- ・上京ありきの就職で不安な面もあったと思うがご指導のおかげで2名の素敵な卒業生を迎えることができた。
- ・県内の大学に目を向けがちだったが就職や実習で来たことで金城大学の学生に目が向くようになった。
- ・貴学卒業の先生方はとても魅力的な先生が多い。
- ・これからも見学や実習に来てもらいたい。
- ・実習後のお礼状に心動かされた。
- ・社会的養護に関心のある学生さんがいましたら実習やボランティアに来て欲しい。

<理学療法学科>

- ・引き続き支援していく。
- ・上下関係の構築（ゼミ等での交流）
- ・就職斡旋に対し本人の将来的な人物像の再確認。
- ・別の卒業生の職場内での指導にあたりテンプレート通りの受け答えがあからさまな形で行っていることが見られるため、礼節や倫理感についての教育の必要性を感じた。
- ・実習など患者と関わる機会を増やせばよいと思う。
- ・実習に行っておらずケースをまとめたことがないため現在苦勞している。CCS で断片的な指導は行えているが入院から退院までの一連の流れや統合と解釈を一回はまとめ整理しても良いと思う。
- ・こういったアンケートはとてもよい取り組みだと思った。
- ・サマリー、経過報告書、症例発表など考えをまとめて文章にしていく能力を在学中にある程度教えて頂ければ臨床に出て仕事をしていくうえで役立つのではないかと考える。
- ・臨床を意識し学内では様々なケーススタディを多く取り入れ学んでほしい。
- ・コミュニケーションスキル（問診や各種評価にも通じる）、実技練習、症例報告の作り方（パワーポイントの使い方等）、発表の仕方など強化していただきたい。
- ・知識はあるものの評価や介助の実技経験が少ない印象を受ける。学内での実習においてももう少し実技の時間を増やして頂けると、実習、就職後により実践的に活かしていける能力が身につくのではないかと感じる。
- ・卒後教育の強化。
- ・触診と解剖学。
- ・知識はどのようにもなるが対人関係や業務処理は個人の性格によるところが大きい。自身の特性を認識し意識や行動にどう活かすかを意識できる教育ができることを期待する。

<作業療法学科>

- ・教えたことはできるのですが、自ら考えることが難しいようだ。
- ・卒後教育の中でもですが、考えて意見を言うことができるようにできればよいと思う。
- ・多様性の時代ですので個性なのかもしれないが卒業生の特性などあると情報として入れていただきたい。世代の違いなのか対応に困ることがある。
- ・医療と介護違いを明確にした教育をお願いしたい。
- ・学校側がケアセンターの特色を捉えて適任者を紹介していただいたものと理解している。
- ・今後も臨床実習を通して学校側と親密な関係を持っていければ良いと思っている。
- ・より臨床に近いゴール設定や問題点の抽出をしてほしい。
- ・介助方法の実践。
- ・動作の誘導の経験が少なかったようだ。
- ・標準化された高次脳機能評価の実物に触れる機会も少なかったように思われる。
- ・学校等経験する機会がもう少し増えると臨床で有益ではないかと思う。
- ・患者に触れる機会に乏しいため就職してからの介助指導に時間を要する。実習もしくは学校でも患者と触れる機会が増えないか。
- ・就職先はどのような特徴を持つところなのかを知っておいてほしい。
- ・起居、移乗の練習。
- ・FIM の理解。

<看護学科>

- ・倫理教育に力を入れて頂ければと思う。
- ・時期的なこともあると思うが臨床経験が少ないので、もう少し臨床に出て生の患者と関わることが大切と考える。
- ・学生の中に苦手な部分について本人が気づき、どうしたら苦手な部分を補えるかがわかるまでになると指導者側としては助かる。
- ・1つの看護技術をいろんな患者想定で考える力をさらに強化されるとより実践に近づけると思う。
- ・協力や仲間意識、連帯感が少ない気がする。実習や演習を通して醸成されると良いと思う。
- ・規律性、積極性、協調性、責任性について学んで身につけていただければと思う。
- ・自分の思い込みではなく「確認」の重要性を強化していただきたいと考える。
- ・入職し社会人として自覚するために社会人基礎力に理解を深めていただければ看護実践能力の向上に繋がるのではないかと感じる。
- ・自己肯定感を正常にもてるよう学生時代から関りができるのであればお願いしたい。
- ・本人の性格により気になる点、不十分な点が見られるかと思いますがサポートする側としては情報があると対応がしやすいと考える。
- ・全体的に「指示待ち」の新人が多い。学生の頃から主体的に学び、考え、行動できる人材育成をお願いしたい。
- ・適切な言語での会話、電話対応ができるような訓練、コミュニケーション能力が必要かと思う。
- ・会話の中から必要な情報を聞き出せるようになる技術も身につけられると良い。
- ・会話や慣れない処置などで患者の所に行き所在が分かりにくくなることも新人皆に言える事だが報告・連絡ができれば良いと感る。
- ・ストレスコントロール力について教育してもらえたらよい。
- ・なぜ看護師を目指そうとしたのかを大切にし学校生活や実習はもちろん様々な経験を積みその力を身につけてほしい。
- ・学生のうちにしかできない体験から人間力を高められるような教育をしていただけると社会で活躍していける人材に育ってくれると考える。
- ・基本的な接遇、挨拶など身につけて社会に出ると意に反した対応は避けられると考える。
- ・看護過程や病態生理などが苦手であり学習方法や倫理的思考についての指導を強化していただけるよい。
- ・看護師に全く興味がないまま就職してくる新人が多いと感じる。
- ・卒業後も卒業生を気にかけて評価されているところはとても素晴らしいと感じた。
- ・社会人基礎力の部分は臨床でも育てていかなければならないと感じている。このように卒業後の教育についても情報共有しながら育てていければ良いと感じている。
- ・礼儀正しさや生活態度がとてもあり社会人基礎力も高いと感じる。
- ・これまでに就職された方の多くは真面目に仕事に取り組む姿勢が見られる。
- ・貴校卒業生2名は共に明るく部署を盛り立ててくれる存在であり教育の賜物と感じている。今後、当院で活躍する彼女たちを在校生にも見ていただきたい。
- ・明るく元気に勤務してコミュニケーションも取れている。今後の成長が楽しみだ。
- ・たくさんの経験を積むことで自身に繋がるように現場では教育していきます。
- ・当院で働きたいと思える環境、教育をさらに充実していきます。

以上